HOKKAIDO UNIVERSITY

| | |
|---|---|
| Title | 映像教材「イオマンテ　熊送りの儀式」を用いた異文化間教育の実践　：　2011年度履修学生の学びから |
| Author(s) | 齋藤, 眞宏 |
| Issue Date | 2012-06-10 |
| Doc URL | http://hdl.handle.net/2115/49376 |
| Type | conference presentation |
| Note | 異文化間教育学会 第33回大会. 2012年6月8日（金）～6月10日（日）. 立命館アジア太平洋大学(APU). 大分県別府市. |
| File Information | Saito_3.pdf |

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

# 映像教材『イヨマンテ　熊送りの儀式』を用いた異文化間教育の実践：2011年度履修生の学びから

2012年6月10日
＠立命館アジア太平洋大学

齋藤眞宏（旭川大学）
saitoum@live.asahikawa-u.ac.jp

# 1. 教科担当者としての“問題的事実”

学生達は･･･

- 異文化間教育を全く関係のない他人についての学習と認識している。
- 異文化理解には肯定的なイメージを持つ。諸外国･諸地域の文化を知ることについては興味を持っている。
- 自分のあり方を見つめたり、変容を促されたりするような異文化には否定的。
- 「異文化理解は大切」という「正解」を書いていれば無難に切り抜けられる！？
- 日常生活では表面的な友人関係？

# ２－１．先行研究を通じた授業課題

①文化相対主義をどのように乗り越えるのか？

- 「すべての文化に等しい価値がある」という「文化相対主義」は学生たちの現状にも将来の環境にもそぐわない。
- 人類に共通とされている「普遍的価値」についてどのように異文化間教育は向き合って行けば良いのか。
- すべての文化に中立的であることは，それぞれの文化の存在する不公平性や抑圧性，権力性などを温存し，時に助長する

「文化相対主義の中立的な立場が現状維持を助長する」
「私たちはもはや『ナイーブな』文化相対主義を掲げることはできない」（馬渕、p.248）

# ２－２. 先行研究を通じた授業課題

②私も含めてある文化に対して「異文化」と感じる自分およびその感得のプロセス（＝自己の経験を含めた社会的背景）に対して自覚的である必要性がある。

「『事実』が『人の手でつくり出された虚構である』というのはいかにも不思議なようですが，先に述べたように『見る』という行為がそもそも，人間の側からの『造り出す』という作業を含んでいるとすれば，それは当然なことになるでしょう。『裸の事実』というのはむしろあり得ず，あるのは常に，人間の側のある働きを媒介として『造り出された事実』であることになるからです」（村上，p.110）

# ２－３．先行研究を通じた授業課題

③どのように「異文化」と「うまく付き合う」のか。現在の市民，将来の教師としての「臨床の智」（新原，p.259）を得る必要性がある。

「まずはその『見えない』もしくは選択的盲目によって『見ようとしていない』“内なる異文化”にどのように“ふれる”のか，いかにかかわるのかという困難，『往く』ことの困難である。二つ目の困難は，より重層的なものだ。“内なる異文化”にふれようとするものは，みずからの組成に配置換えが起こってしまい，もはや最初にもっていた言葉では，みずからもその場に埋め込まれている固有の状況について表しきれないことを感得してしまう。それは動いた後に前にいた場所とは異なる場（heterotopia）へと『還る』という困難，あるいは断片や切片としてまき散らされた“智”を『冷凍』し標本箱にいれることをもはや『黙認』できなくなってしまったその体の声を聴くことの困難，さらには“智”の生命力を練り上げていく“産婆”となる事への困難である。いかに『往き』『還る』のか。」（新原，pp.262-3）

# ２－４．先行研究を通じた授業課題

④社会に対する批判的考察力の育成

「これまで『異』というカテゴリーを設定することで、『例外』や『異端』を除外し、見てこなかったように思えてならない。『異』と『自』という枠組みで見ると『例外』や『異端』と見えるものが、実は意味を持つことがあるし、『異』と『自』というカテゴリーの設定の仕方に権力関係が反映する場合、その権力関係を温存してしまうことにもなり、それまでの枠組みを固定化することにつながる」（佐藤、p.41）

# 3. 教職課程開講科目「異文化間教育」の授業の到達目標及びテーマ

1. 異文化に「出会い」、違和感や葛藤など負の感情を抱く（課題①）
2. 自己と他者を「みつめる」（課題②）
3. 学生間及び学生－教師間の対話を通じて「つながる」（課題③）
4. 互いによりよく生きる権利を認め，そのための空間を創造するアイディアを得る（課題③④）

# 4.「異文化間教育」指導計画（1）

| 講（全15講） | 学習内容 |
|---|---|
| 第1講 | オリエンテーション<br>「パワーシャッフル」「部屋の四隅」<br>「ある学生の意見：異文化理解は必要ない」[7]に賛成か、反対かを論ぜよ。 |
| 第2講 | 「世界がもし100人の村だったら？」 |
| 第3講 | 「地球の仲間たちフォトランゲージ」 |
| 第4講 | 「レヌカの学び」 |
| 第5講 | 「雪渡り」から学ぶ他者理解 |
| 第6講 | アイヌ民族と国民国家日本 |
| 第7講 | 「イオマンテ」とアイヌ民族と日本人 |

他者と出会い，理解に努めるとともに，自分および自分自身が育ってきた社会的背景を見つめる。

# 4.「異文化間教育」指導計画（2）

| 講（全15講） | 学習内容 |
|---|---|
| 第8講 | 「自文化」「異文化」と異文化間理解／自己をみつめるアクティビティー |
| 第9講 | 「共生」について |
| 第10講 | 教育と共生 |
| 第11講 | 共生の難しさ:「クジラと生きる」（NHKスペシャル　2011年5月22日）の一部を視聴し，Sea Shepardと太地町住民の対立を扱う※2011年度のみ |
| 第12～14講 | 人間解放と多文化共生教育<br>多文化共生教育の実践:その歴史と現在 |
| 第15講 | 臨時講義　太田満氏（アイヌ民族研究者　北海道教育大学・旭川大学非常勤講師） |
| 論述試験（計3問） | 「イオマンテの継続の是非について論じよ」「『すべての教育は異文化間教育である』（倉地、p. ii ）という視点について論ぜよ」「中学校における異文化間理解のための授業を企画せよ」 |

# 5. 第7講の目標

① 自らの生活背景に言及しながら，どのように自分が「異文化」を異文化と認識したのか考察できる。

② 「越えられない」異文化に対して，どのように向き合い，そこからの学びを自分の言葉で表現できる。

③ 命を頂いて生きる自らの生活を見つめつつ、熊を殺す行為も含むイオマンテ継続の是非について価値判断をすることが出来る。

④ 『日本の姿　イオマンテ　熊送りの儀式』に対して多様な視点を持って視聴できる。

# 6. 導入（10分）前時「日本社会とアイヌ民族」の振り返り②

## 学習内容

違星北斗（1902~1929）の短歌

1. ウタリーの絶えてひさしくふるびらのコタンの遺跡に心ひかれる
2. アイヌと云ふ新しくよい概念を内地の人に与へたく思う

T　どのような思いで違星さんはこのような短歌を作ったのだろうか？

## 学生たちの動き

S　スライドを見る
S　二首の短歌を音読
S　意味の確認

S　答える
（予想される反応）
- アイヌとしての誇り
- 日本社会に対して反感

# 導入（10分）前時「日本社会とアイヌ民族」の振り返り②

## 学習内容

「アイヌであることが一番の不幸で、アイヌであることが一番の幸福だったみたいな・・・」（アイヌレブルズ　酒井さん）

（DVD「僕たちのアイヌ宣言　民族と自分のはざまで」（NHK　2008年1月13日より）

T　なぜ酒井さんはこのように感じるのだろうか。

## 学生達の動き

S　スライドを視る。

S　答える（予想される反応）

- わからない
- アイヌに対する差別があるから
- もうアイヌ差別はない

# 導入（15分）前時「日本社会とアイヌ民族」の振り返り③

## 学習内容

（前時で各
ポートを

T：指示①

「それぞれ
象深い意
い」

## 学生達の動き

ポートを見
る
った意見
べる。

民族を意

が大切

- 偏見はなくさなければいけない
- 偏見や差別は簡単になくならない

2011年度は，前時の授業でコミュニケーションカードを書く時間を十分にとれなかったので省略

# 9. 展開①（5分）イオマンテの説明

## 学習内容

T　説明

イオマンテの意味

「父なる神より貢物を受けに遣わされた仔熊は、1年後には沢山の供物を持たせて天国に還すべきであるとの不犯観念よりなされる祭典」（貝澤藤蔵）

## 学生たちの動き

S　説明を聞く

# 10.展開②－1（30分）映像教材『日本の姿　イヨマンテ　熊送りの儀式』

## 学習内容

T　指示

それでは『日本の姿　イヨマンテ　熊送りの儀式』を視てもらいます」

（内容）平取町二風谷で1977年2月28日～3月4日に行われたイオマンテ

- 映像の途中で適宜説明を入れる
- 学生が参加しない権利も認める

## 学生たちの動き

S『日本の姿　イヨマンテ　熊送りの儀式』を視聴する

# 11.展開②－2（30分）映像教材『日本の姿 イヨマンテ　熊送りの儀式』

## 学習内容

- 2月24日～　祭りの準備：道具作り、酒や御馳走づくり。
- 3月3日　イオマンテ当日
- 熊を檻から出してヌササン（祭壇）の前に連れて行く。
- ヘペライ（花矢）を打ち仔熊と遊ぶ。
- しとめの矢を打って仔熊を殺す。

## 学生の動き

S　映像を視聴する。

# 12.展開②－3（30分）映像教材『日本の姿 イヨマンテ　熊送りの儀式』

## 学習内容

- ニヌムチャリ：仔熊の遺骸にクルミと干し魚を撒く。
- アイヌペウレプ：熊の格好をして人々が遊ぶ。豊猟祈願
- 仔熊の解体：ヌササン（祭壇）の前で行う。肉は作法に従って、カムシケニ（肉を背負う木）にかける。
- 火の神との対面：仔熊の毛皮を付いた頭骨をチセに招き入れる。
- ウンメンケ：死んだ熊の頭の化粧をして，旅立ちの支度をする。

## 学生の動き

S　映像を視聴する。

# 11. 展開②－4（30分）映像教材『日本の姿　イヨマンテ　熊送りの儀式』

## 学習内容

3月4日（早朝5時）

- ケオマンテ（なきがら送り）：「火の神様の言うことをよく聞いて、わたしたちアイヌが作ったお土産を背負って、ただ一筋に神の国へお帰りください」と祈ってから、花矢を一本打つ。
- 火の神に最後の報告

（『日本の姿　第7巻イヨマンテ　熊送り』紀伊国屋書店より）

## 学生たちの動き

S　映像を視聴する。

# 12. 展開③－1（10分）「イオマンテ」の継続についての考察

## 学習内容

T　指示　カードを出してください。

T　発問

北海道庁は長くイオマンテを「野蛮な儀式」として禁止してきました。しかし2007年4月にアイヌ文化尊重の観点からその禁令を撤回しています。アイヌ民族がイオマンテを民族の伝統的な儀式として継続していくことに賛成ですか／反対ですか？その理由も述べてください。今は自分の意見を書いてください。

## 学生たちの動き

S　映像を視た後の自分の意見をカードに記入する。

（予想される意見）

- 残酷
- かわいそう
- 自分たちも動物の命を食べている
- アイヌにとって大切な儀式

# 13. 展開③－2（5分）「イオマンテ」の継続についての考察

## 学習内容

T　発問

あなたの席の周囲の友人は、どのような意見ですか？ディスカッションをしてください。印象深い意見があればこの欄に書いてください。

※机間巡視をしながら，適宜意見を全体で共有

## 学生達の動き

S　カードに記入する

周囲の友人とディスカッションをしたうえで，周囲の友人の意見を記入する。

（予想される意見）

- 残酷
- かわいそう
- 自分たちも動物の命を食べている

・アイヌにとって大切な儀式

# 14. 展開④（5分） 自分の生活を振り返る

| 学習内容 | 学生たちの動き |
| --- | --- |
| T　発問<br>「この中で肉類を食べたことがない人は手をあげてください」 | S　挙手する。 |
| T　説明<br>和歌山県太地町のイルカ漁<br>南氷洋におけるクジラ漁<br>カナダのアザラシ猟<br>その他，オーストラリアのカンガルーパイ，中国や韓国の犬肉食などに言及 | S　説明を聞く |

# 15. 発展（15分）イオマンテの解説①

## 学習内容

T　説明

1. イオマンテの持つ意味

- 祈りの聖なる儀式
- 伝統を学び受け継いで
はじめてアイヌになる
（＝教育の場）
- 人と人の交流の場
- 資源の再分配
- 自分の権力を表現する
場（＝政治の場」）

## 学生たちの動き

S　説明を聞く

# 16. 発展（15分）イオマンテの解説②

## 学習内容

T　説明する

2. イオマンテと和人

3. イオマンテとアイヌ

4. 最近のイオマンテ

- 旭川川村カネト記念館（2001年）
- 白老（2009年）

## 学生たちの動き

S　説明を聞く

# 17. 発展（2分）ある学生の意見の紹介

## 学習内容

T　ある学生の意見の紹介

「殺す＝残虐」と考える人にとっては、イオマンテもやはり「残虐」なのだと思う。では逆に、「殺す」に「残虐性は一切含まれない」のだろうかと問えば、そうではないだろう。なぜなら意味なく命を奪うことはやはり残虐だと思うからである。このようなことから、残虐か残虐でないかの判断は「行為そのもの」ではなく、そこにどのような「意味」＝「意志の介在」があるかによって下されると考える。」（ある短大学生の意見）

## 学生達の動き

S　スライドを視る

# 17. 発展（10分）イオマンテの継続に対する自分の意見の発展

## 学習内容

T　指示

あなたはイオマンテの継続（熊を殺す行為も含む）について賛成ですか？反対ですか？できる限り多様な観点から論じてください。

## 学生達の動き

S　再度，自分の意見をカードに記入する。

2011年度は十分な時間をとることが出来ず，ほとんどの学生が記入せずに提出した。

# 18. 評価の観点

① 自らの生活背景に言及しながらどのように自分が「異文化」を異文化と認識したのか考察している。

② 「越えられない」異文化に対して，どのように向き合い，そこからの学びを自分の言葉で書いている。

③ 命を頂いて生きる自らの生活を見つめつつ、熊を殺す行為も含むイオマンテ継続の是非について価値判断している。

④ 『日本の姿　イオマンテ　熊送りの儀式』に対して多様な視点を持っている。

※コミュニケーション・カードの記述を基に評価した

# 19. 学生たちの学び （履修者14名）

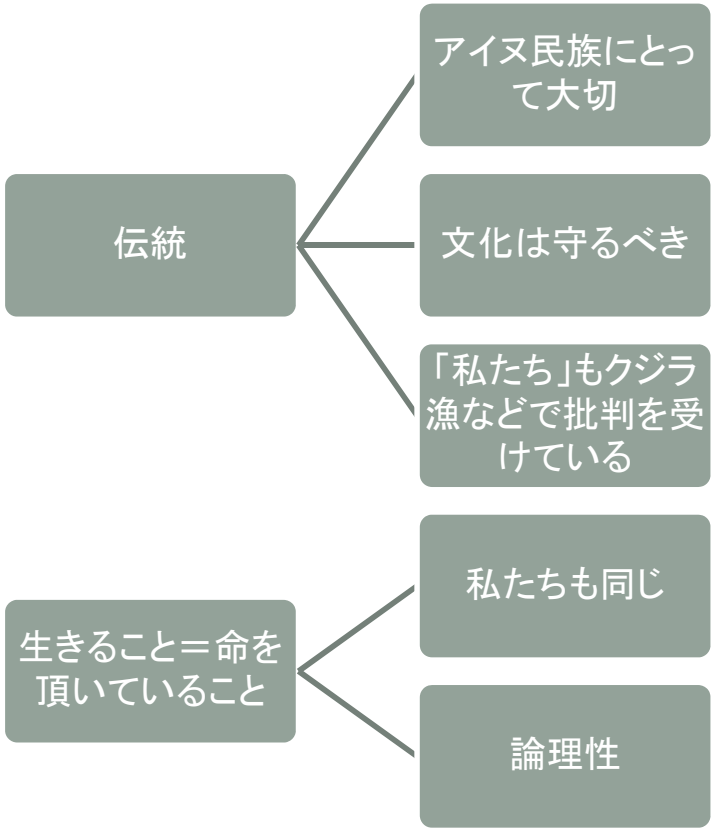
| 本時の目標／評価の観点 | |
|---|---|
| どのように自分が「異文化」を異文化と認識したのか考察できる。 | 0／14名 |
| 「越えられない」異文化に対して，どのように向き合い，そこからの学びを自分の言葉で書いている。 | 0／14名<br>※8名は「殺す」ということに言及 |
| 命を頂いて生きる自らの生活を見つめつつ、熊を殺す行為も含むイオマンテ継続の是非について価値判断している。 | 5／14名 |
| 『日本の姿　イオマンテ　熊送りの儀式』に対して多様な視点を持っている。 | 0／14名 |

授業者としての結論

- 学生達は自身の社会化の過程を考察するには至っていない。
- 「殺す」ことに違和感を抱いてはいるが，その感情の吐露に終わっている。
- 「命を頂いてる」ことへの意識は見受けられる。
- 映像教材を多様な視点から見てはいない。

# 20. 学生達の学び

## イオマンテの継続に賛成




## 学生たちの学びからの学び

- アイヌ民族にとってイオマンテは大切という意識。
- 自分も生きるために命を頂いていることを認めてはいる。
- 伝統文化は守る必要があるという意識
- アイヌ」vs.「私たち」という二項対立的な考え方に対して当然視・無批判。自分に照射して考えてはいない。

# 21. 学生たちのイオマンテの継続に対する賛成意見

〈伝統的な儀式〉

アイヌ民族から見れば一年を過ごす大切な儀式だから賛成（1年　男子）

続けたいなら続けるべき。何事も神様を大切にしていて，そういう文化や伝統を守ってほしい。（1年女子）

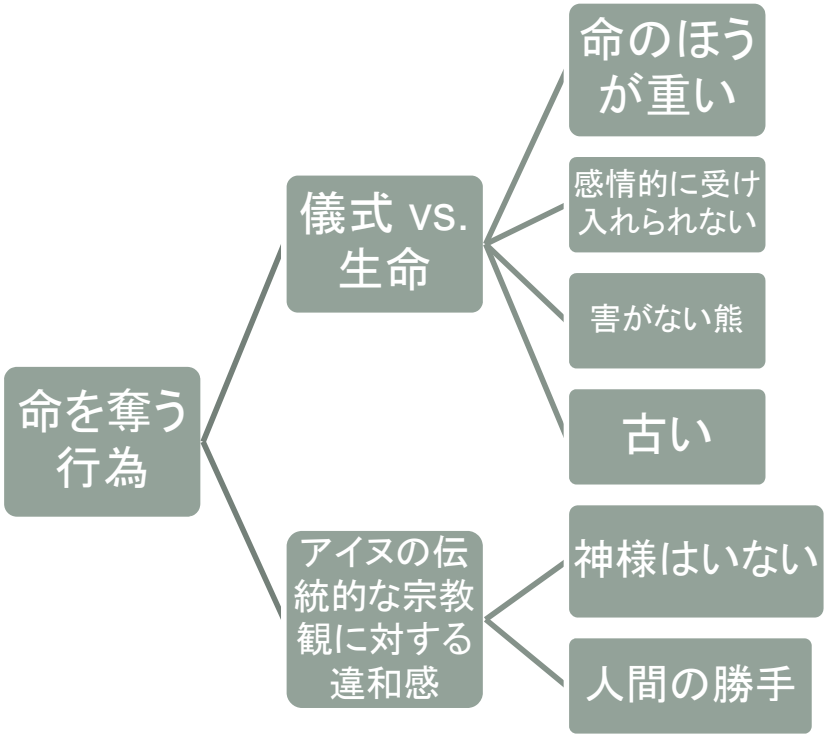
〈生きるということは命を頂くこと〉

人間は生きていくうえで，誰かの命を取らないと生きていけない。（略）自分たちは日常を生活している中では命をもらって生活しているという感覚は全くない。（1年男子）

→「自らを見つめる」可能性を秘めている意見。最終論述試験では酪農家である自分の家族の経験を記したうえで「命を頂いていると感じることは少ない」「生き物の命を頂いて生きていることを改めて感じた」と書いていた。

# 22. 学生たちの学び

## イオマンテの継続に反対




## 学生たちの学びからの学び

- 命を奪う行為への違和感が強い。
- 「万物に神が宿っている」という宗教観に対する違和感
- 自分の感情を率直に吐露している。
- いずれにしても自分自身に対するまなざしはない。

# 23. 学生たちのイオマンテの継続に対する反対意見

〈儀式で命を奪うことに対する違和感〉

いくら伝統的な儀式だからといって，儀式のために殺すのは考え方が古い（1年男子）

熊という一つの生命をああいう風に殺すシーンを見て自分は嫌だ。（略）動物好きの私にとっては反対（3年女子）

生活をしていくうえで何の害もない動物を殺すのはかわいそう。熊でも一匹の生き物，命なので大切にしてあげたい。（1年男子）

〈「神」に対する違和感〉

神にあったことがないので，神がいるかわからない。思い込み。

神様がいるとは思わないのでおそなえ？みたいなものを見ても理解できない。

# 24. 学生たちの学び

## 設問2「周囲の友人の意見」

11人が無記入。

〈回答〉

- あまりなにも思わなかった。(2名)
- わからない，というのがしっくりくる(1名)

〈授業者としての感想〉

- 学生同士の意見交換は，ほとんど見られなかった。
- 促されても，部活動等で一緒の仲間内での意見交換に留まる。
- 「何も言えない」「わからない」という雰囲気
- 多様な意見を共有しても，特に「場が動く」状況は創られなかった。
- 意見を交換して共有して深めるという学習意義について理解していない。

## 設問3「自分の意見の改善・発展」

12名が無記入

〈回答〉

- アイヌにとって歴史ある文化。
- 特になし。

〈授業者としての感想〉

- 設問2の共有が不発に終わったために，書く時間が1分程度しかなかった。そのために自分の意見の問い返しをした学生はほとんどいなかった。
- 多くの学生にとってイオマンテの儀式自体が「わからなかった」というのが率直なところ
- 「考え直して深める」学習意義についても理解していない。

# 25. 授業者としての総括

本講義は授業目標に対して，十分な成果を上げたとは言えない。
〈要因〉
①授業目標と学生たちの異文化間教育観の乖離
- 自分の在り方を見つめたり，自分の変容を促されることに対して無関心
- 社会を批判的に見て，考察することにたいして興味・関心がない。
- 自分や社会を多様な視点から見るためには，社会に対する認識が不足している。

②授業手法と学生たちの学習経験との乖離
- 他者と意見共有の意義を理解していない。
- 他者の意見や新たな知識を基に考察を深める意義を理解していない。
- 自分の意見を表現する意義について理解していない。

③本講を補足するために，11講で『クジラと生きる』を視聴し，15講での太田満氏の臨時講義を実施した。結果として学生たちは「アイヌの伝統的な儀式」から「食べ物の有難みを教えてくれる儀式」という視点の広がりを見せた。

# 26. 参考文献


- 佐藤郡衛.(2008).「異文化間教育学の固有性ー学問としての自立は可能かー」小島勝 (編),『異文化間教育学の研究』. ナカニシヤ出版.
- 新原道信.(2001).「“内なる異文化”への臨床社会学“臨床の智”を身につけた社会のオペレーターのために」.野口裕二, 大村英昭（編）.『臨床社会学の実践』.有斐閣選書.
- 馬渕仁. (2008).「多文化・異文化リテラシーにおける『文化のとらえ方』」. 小島勝 (編).『異文化間教育学の研究』. ナカニシヤ出版.
- 村上陽一郎.(1999).『新しい科学論』.講談社.
- 村田雅之,2011,「デジタル教材制作を通した異文化間教育の方法(2)」『異文化間教育学会第32回大会抄録集』,52-53.